

第5回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

1 開催日時

平成29年12月19日(火)10:00～12:05

2 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室（広島市中区国泰寺町一丁目6番34号）

3 出席者

懇談会構成員

団 体 名 ・ 役 職	氏 名
広島県原爆被害者団体協議会 事務局長	前田 耕一郎
広島市立大学広島平和研究所 副所長	水本 和実
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事長	渡部 朋子
特定非営利活動法人ひろしまジン大学 代表理事	平尾 順平
被爆体験証言者（平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事）	原田 浩
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	辻 孝和
ひろしま通訳・ガイド協会 会長	古谷 章子
広島市市民局国際平和推進部 部長	津村 浩
広島市経済観光局観光政策部 部長	阪谷 幸春

（計9名、欠席なし）

事務局

観光プロモーション担当課長補佐、主査

株式会社JTB中国四国地域交流推進課ディレクター（計3名）

4 議題

(1) 「目指す姿」と「目指す姿に向けた取組方針と取組概要」について

(2) 具体的な取組内容について

① 情報発信について

② 来訪者を迎えるにあたっての環境づくり（ルート設定等）について

③ 迎える市民の積極的な関与について

(3) ピースツーリズム推進事業の推進にあたっての配慮・対応が必要な事項について

(4) その他意見交換

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

6名

7 会議資料名

資料：ピースツーリズム推進懇談会（第5回）

8 発言の要旨

（原田座長）今後の予定については、1月に開催する懇談会で市長報告のたたき台をお示しして、これをもとに議論いただき、2月の懇談会でとりまとめ市長に報告することを考えている。そのため、今日の懇談会で、皆さんから忌憚のないご意見をいただきたい。

《事務局から資料に基づき説明》

(原田座長) ルート設定等については、4回にわたって各施設を巡っていただいた。歩いてみて初めて分かることや、意外な発見があった。施設を見て、今の状態でよいのかと思われたのではないか。

◆「目指す姿」と「目指す姿に向けた取組方針と取組概要」について

(原田座長) これまで4回の懇談会の意見を踏まえてとりまとめたものであり、これを最終案とする。さらにご意見があれば、後ほど事務局に提案していただきたい。

◆具体的な取組内容について

(原田座長) 松井市長がオスロでのノーベル平和賞の受賞式に参加された。これについて市長が記者会見され、各社が報道している。

最近は多くの来訪者がめいぷる〜ぷを利用するようになってきた。乗車している来訪者と会話が弾んでいる。市民も利用し来訪者と会話できる場になればよいと思う。以前もお話したが、市立高校における平和事業への取組についてのメモを配付した。これらをまとめて、市立高校としての取組ができるのではないかという気持ちを持っている。

(水本委員) これまでの懇談会の中で、重要な意見はほぼ網羅されている。あまりに盛りだくさんのものがあると分かりにくくなるので、同じようなアイデアはグルーピングするなど、整理統合することが必要である。

ピースツーリズムは、ピーススタディとは違う。大学の授業のようなものとは違い、あくまでも、旅行者が自発的に選んでいただくようにすることが必要である。いかに良いアイデアを盛り込んでいても、旅行者の立場に立って、初めて来た全く広島を知らない人にも分かるよう、自然に選び取れるようなプログラムづくりが必要だと思う。

いきなりピースツーリズムを始めるのではなく、試行期間を設け、例えば市民の方に実際に辿ってもらいなどにより、利用者からのフィードバックをいかにきめ細かく盛り込むかということが大事ではないか。

(平尾委員) 実際にルートの調査に参加して、現場に行ったからこそ分かることがたくさんあった。その一つとして、この懇談会で決めるべきことかどうかは分からないが、自転車による走行環境や横断歩道など、取り巻くインフラについて、整備の余地があると思う。ルートを巡る際に、歩行者や他の人の迷惑にならないようにするには、また安全を確保するにはどうしたらよいのか、自転車専用ルートが必要ではないかといったことにも、目を向ける必要があるのではないか。

また、この取組について、アプリやサイトができることがゴールではなく、いかに旅行者にそれを知ってもらうか、そして活用してもらうか、取組自体のPR、あり方を考えないといけないが、そこがなかなか難しいところである。

水本委員が言われたように、いきなり完成したものとして出して終わりではなく、バージョン1として作って、体験してもらってフィードバックをもらい、バージョン2ができるという、

随時アップデートしていく仕組みが必要である。いきなり完成したもの、一度作ったら手の入れられないものを作ろうとせず、どんどん進化していくプログラムとするには、いかにフィードバックを反映させるかというサイクルを始めから意識して進める必要があるのではないか。

(辻委員) 現地調査に参加して、説明板が統一されていないなど、課題がたくさんあった。被爆75周年までにはあと2年しかない。2020年のオリンピック・パラリンピックとも重なる。今回検討してきたことを、一つの一里塚として結果は残さないといけない。旧広大理学部校舎のように何も説明板がない箇所もあり、例えばおりづるのマークを付け、多言語化した新しい説明板を整備していくことが必要である。自転車でまわるには危険な箇所もあったので、そこまで自転車でいくよりも、めいぶる〜ぷのピースバス版を作れば、修学旅行等でも利用しやすくなり、そこに外国人旅行者も乗ると、若い人と外国人旅行者が会話ができる。今、広電などがバスの停留所の整理にとりかかっているので、停留所の増設などを働きかけるには良いタイミングではないか。

高校生など若い世代に、情報発信も含めて考えていただくことが必要ではないか。若い人達による意見交換の場を作り、被服支廠をピースデパートのような商業で活用したり若い人が発表できる場所に転換するなど、今残っている被爆建物をうまく利活用することを若い人達に考えていただく。次に引き継いでいく責任が我々にはあるのではないか。

(前田委員) 盛り込まれている内容は多岐にわたっている。整理の仕方について、何か軸を通してとりまとめていく必要がある。ここにまとめている方策だけに収斂できるのか、これで実行に移せるのかという観点で考えたほうがよい。懇談会での色々な発言や、ヒアリング調査での発言はどれも示唆に富んでいるため、できるものもできないものもあると思うが、まとめの段階では発言事項すべてを網羅して巻末等にまとめる形をとってほしい。

行政として具体化していくことになると思うが、行政としてどう取り組むかという視点で、予算立ての話だけでないまとめ方が、次のステップとして必要ではないか。

ルートについて、他所から来た人は本当にこのとおり巡るだろうか。どこからでも入ることができ、どこからでも抜けることができる自由なものにしたり、その中から地点を自由に選ぶことができるようにしたりすることが必要だろう。

物を見て何かを感じるだけでなく、広島に住んでいる人と触れ合う、何かを説明してもらうという観点はとても大事ではないか。

(渡部委員) 実際に歩いてみて発見がたくさんあった。来訪者が広島のメッセージを受け止めていただけるかどうか配慮した発信ができていないかという点、半分程度だということを実感した。平和記念資料館（以下「資料館」）を国内外からたくさんの方が訪れているが、本館は工事の塀で囲まれており、何の説明もない。これでは、お金をかけて色々な思いを持って訪れた人は、なぜこのような状況になのか分からず、仮設に近いような段階の東館の展示だけを見て、これが広島の資料館だと思って帰ってしまう。誠に残念である。世界平和祈念聖堂も工事をしているが、きちんと保存のための修理をしていることが書かれており、聖堂を修理している側の意思を感じることができる。こういう目線が、広島に不足している。

リアルを大事にすること、一次資料を大事にすることが必要である。それとは反対の方向に、平和発信が偏り始めているのではないか。

市民とともに作り上げていくということであれば、ここに書かれていることの試行錯誤、検

証も含めて、色々な世代の市民とともに進化させていくことを明確に打ち出す。役所がやっていることで終わるのでなく、私達のこととしてやっていくという気持ちの醸成が、成否の鍵を握っているのではないか。その中には、広島市の職員も入る。一人ひとりが、平和を発信していく街の職員だという気持ちをもって様々な市の行政に取り組んでいくということは大きな力になり、平和を希求する市民との協働ができるのではないか。

ルートについて、現在の資料館では不足であるが、歩いてみると、よい一次資料を展示している本川小学校の資料館がある。資料館を補う、もう一つの資料館ルートというものも作ってはどうか。また、被爆者と同じように語ってくれている被爆樹木を巡って感じるルートというものも作ってはどうか。

(古谷委員) 最初の懇談会で申し上げたことをもう一度言う。今年の春にクルーズのお客様でスタンフォード大学やコロンビア大学の卒業生の同窓会の方々の案内をした。最後にどこが一番印象に残ったかを聞くと、広島と答えられ、今の世界状況の中で広島の持つ意味は本当に大きい、今回の旅で広島の平和公園の碑巡りや資料館の時間が短すぎたのもう一度来たいと言われる方がとても多かった。広島のガイドに対する社交辞令ではなかったと思う。2回目、3回目と来られる方のために、色々なことを考えるこのピースツーリズムのメンバーに選んでいただいたことはとても光栄であり、考えることが多い。

通訳ガイドの仕事を初めてもうすぐ39年目に入るが、外国の方の旅の形が変わった。最初は、40人くらいの団体で、すべてが企画・手配されていて、一流ホテルに泊まるような形だった。その後に、パッケージツアーで新幹線で広島に来られるのを迎え、宮島と平和記念公園を案内し、また新幹線で戻るという日帰りツアーが多くなった。最近は、個人でインターネットで情報を集めて広島に来る人が増えている。そのことを強烈に感じたのは、今年、県の観光立県推進会議で、滞在時間を延ばすために夜神楽が有効だという話をしたところ、県立美術館の地下で公演することになり、公演の際にアンケートで、この公演についてどこから情報を得たのか、どこに宿泊しているか、この後どこで食事をとるかなどの情報を集めたが、これまで私がガイドをしてきた方々とは全然違う世界だった。1泊2,500円といった低料金で泊まれるゲストハウスに泊まっていた。ゲストハウスがどのようなものか知りたいと思い、ゲストハウス12か所を見て回った。宿泊だけでなく、地元の人たちとの交流や、同じ日に宿泊した世界各国の人たちとの交流・情報交換など、色々なプログラムを作るなど熱心に取り組んでいる人もおり、これはすごいと思った。ピースツーリズムについてある程度のものができたら、その情報をゲストハウスに持っていくのがとても有効だと考える。

広島にJICAなどの関係で長期間研修に来ている人や、広島で働いている人たちも多く、そういう人たちへの情報発信も上手にするとよいと思う。

ぴーすくるはとても良く、可能性があると思う。ただ、ある程度決まったルートで動くようにしないと、たくさんの人たちが来て勝手に動くと、狭い路地などにおいて大変なことになるので、その整理は大事だと思う。

ゲストハウスめぐりの際に見つけた広島の美しいルートを紹介したい。本川沿いにゲストハウスがあり、そこから三篠に行こうとしたとき、川沿いに桜の木がたくさん植えてあって、基町の高層住宅があり、こども文化科学館があり、緑が豊かで、このような景色をぜひ見てほしいと思った。このような景色を紹介するぴーすくるを使ったルートという発信がよいと思った。

資料館の状況はとても残念に思っている。来年 7 月のリニューアルオープンまで、言いたいことはたくさんあるが我慢しようと思っていたが、新聞でその次の春までかかることを知った。思えば、被爆 70 年の時にあのような状態だったのは、広島の恥であったと思う。どうして市の人たちの意思統一をしてきちんと発信しようということができないのか。7 月 7 日の核兵器禁止条約が採択され、ノーベル平和賞受賞があったこの 2017 年に、広島の存在感をきちんと発信しないと、将来広島の可能性は随分減ると思う。どうにかしてほしい。

(津村委員) 行政に対するご意見をいただき、しっかりしなくてはいけないという思いを新たにしている。主に資料館に対する意見をいただいたが、正直申し上げて、当事者としても忸怩たる思いを持っている。特に再整備事業において、掘ってみてわかる事、壁をはがしてみわかる事があり、思いのほか工事に時間がかかっている。再整備事業の元々の目的は耐震補強・安全性の確保であり、おざなりなことはできず、しっかりとした工事をしないといけない。本来に来館者の方々には申し訳ないと思いながらも、どうしてもこれだけの期間はかかるということで、本館のリニューアルオープンの平成 30 年 7 月という目標を延長させていただくという判断をし、発表させていただいた。今の状況が十分だとは、我々も当然思っていない。本館のリニューアルオープン後を見ていただきたいと申し上げる以外にない。ただ、先ほどご指摘をいただいた、何の工事をしているか来訪者にわからない、何の説明もないという点は、確かにそういう声を聞いており、囲いの壁に何らかの説明かサインを表示することは検討したい。

東館での、本館にあった実物資料の仮設展示があれば少ないという声をたくさんいただいております。市も、平和文化センター、資料館も同じ思いであり、来年度に向けて実物資料を中心とした展示の増設を検討しているところである。

被爆樹木については、平和推進課において、すべての被爆建物、樹木を地図上にプロットして、エリア分けしてそれぞれのエリア毎にポイントとなる建物や樹木を紹介する散策ガイドブックを今年度作成することとしており、現在作業している。完成すれば、有料で販売することを予定している。このピースツーリズムの成果とあわせて、うまく活用していただければありがたいと思う。

ピースツーリズムに関して、来訪者目線の必要性は、委員の皆さんが共通して認識していると思う。平和行政を担うものとしては、多言語化をしっかり進めていかななくてはいけないと思っている。

盛りだくさんの意見が出ているが、ご意見があったとおり、バージョン 1 から始まり進化させていくという視点は大事だと思う。いきなりすべての意見に沿うようなものを作るのは実現は難しいだろう。来訪者に自由に選んでいただけるものにするという視点も非常に大事である。小さく生んで、大きく育てていくという進め方ができるとよいと思う。

(阪谷委員) ピースツーリズムができたらいきなり始めるのではなく、試行期間を設けたらどうかというご意見については、市民や外国人の皆さんに試していただいて、様々な意見をお聞きして進化させていく取組はよいと思う。この取組を PR していくことが大事であるというご意見については、例えば、修学旅行について、我々観光部門では修学旅行誘致推進員が年間約 800 校の学校を訪問しており、その際に提供する広島の情報のパッケージにピースツーリズムも入れて、広島に来たら自由学習の時間に回ることができるというような PR ができると思う。

若い世代が考えていく場を作ることに限らず、教育委員会としっかりと連携して、ピース

ツーリズムを学校の現場の中で使うことができないかということを通じて、子どもたちに考えてもらおうというご意見ではないかと思っている。

ルートについては、必ずここから出発するというものではなく、これを1つの基本パターンとして見ていただき、来訪者の旅程にあわせて、どこからでも入ることができ、どこからでも抜けることができるという形で作っていただければと思う。

古谷委員からお話のあったゲストハウスについては、我々観光部門も注目している。ゲストハウスとの連携はしっかりやっていきたい。ゲストハウスの人と話をしたが、地元と連携して来訪者をしっかりお迎えする、そして日本の情報、広島情報を伝え、来られた外国人旅行者とフレンドリーな関係を作っていくということが、広島にとって非常に重要ではないか。ひろしま街角観光案内所（トラベルパル）という制度があり、ゲストハウスにも加盟いただいて、広島の観光情報を発信していただいている。ピースツーリズムについても、ゲストハウスに情報を提供して、幅広く利用していただきたいと思っている。

あわせて、広島にいる留学生にも情報を提供することによって、そこから友人や家族へ広く発信していただき、ピースツーリズムのPRをしていきたい。

12月1日に短い時間だが皆さんと一緒にルートを歩いたとき、頭の中ではここにはこういうものがあるということは分かっていたのだが、その説明板を読むだけでなく、座長等から説明を聞いて初めて当時の状況がよく理解できた。このところがツーリズムの中で重要だと感じた。誰かが説明する体制を将来設けて、経験や知識をうまく伝え、来訪者に感動していただくことができればと思う。

今回の資料では、議会の意見も記載している。11月の経済観光環境委員会で、この懇談会で取り組んでいることについて情報提供した。議会からもご意見をいただき、作り上げていきたい。12月の本会議においても、寄付樹木について世界に伝えて欲しいという要望もあったので、そういったことも組み込みながら作っていきたい。

（前田委員）7ページの「これらの実現のために、最終的にはリアルな現地での発信を念頭に置きつつ、まずは、テーマ性を有したバーチャル面での発信方法として、スマートフォン等を活用した方法から着手していく。」という文章がよく分からない。ここで意味していることは、現地で見ってもらうことが大事なことだと思うので、現地で見てもらい、スマートフォン等による情報はそのための補助としてや、現地に来る前に情報を知るために利用するといった、観点が入った書き方に改めた方がよいのではないか。

ぴーすくるについて、良いものだと思うが利用してみて1つだけ不満がある。重たいということだ。長時間利用できるだけのバッテリーを搭載するための構造上の問題かとも思うが。子どもは乗れないし、女性や高齢者にとっても取り回しがしづらい。無理かもしれないが、若干の改善ができるとよいと思う。

（渡部委員）すぐに物事が動かないのは、お金の要因が大きいと思う。そこで、寄付を募ることを考えてもよいのではないか。例えば、資料館を見た後、皆さん何かをしたいと思われる。自分に何かできることはないかと思っているときに、募金箱があっても悪くないのではないか。来年度の予算が決まらないとできないと1年遅れてしまうことが、被爆遺品の保存のために使いますということで募金を集めることですぐにできる。この機会に、そのような体制を考えていってもよいのではないか。お金があればもっとよくなるのが色々あると思う。

本川小学校平和資料館について、入館者が来ると毎回学校の入口で事務の人が対応する。あそこは非常によい資料がある。市民が入りやすいように、学校側が関与しない別の入り口をつくり、そこからどなたでも入ってみることが出来るようにしてはどうか。人も配置しないといけないかもしれないが、それだけの価値はある。学校もPTAの方もよくやっておられると頭が下がるが、あれを学校に管理してくださいというのは無理があると思う。そういうことも含めて、お金をかけるべき所にはお金をかける。財源をどうするかという話がいつも出てくるので、世界市民の皆さんからの寄付をそこにあてさせていただくということもあってもよいのではないか。

(辻委員) ピースツーリズムというのは、2005年に平和記念施設のあり方懇談会というところで既に出ており、随分前から検討されていると思う。市長に報告する時に、整理して何から始めればよいのかということをしちゃんと出さないと、これもあります、あれもありますでは、どれから着手すればよいのか分からない。説明板が古く多言語化もしていない、一次資料がなおざりにされている、広大跡地も放置されているなど色々ある中で、どれから始めるのかということをしちゃんと懇談会の中で順序付けが見える形で報告しないと、せつかくの報告が報告書という紙になっただけで終わってしまう。

(原田座長) 市は来年度の予算編成を始めている。お金の問題や人の問題があり、なかなかすぐというわけにはいかないと思うが、せつかくここまで議論していただいたので、まず今年度与えられた予算の中で何が出来るのか、少なくともそれだけは打ち出したいという気持ちをもっている。水本委員から試行期間を設けてはどうかという意見があり、平尾委員からはバージョン1、バージョン2という過程も必要なのではないかとの意見もあった。事務局にお願いしたいのは、来年度もこの中身をより充実させるということをし踏まえたうえで、一応4月までに市長に報告させていただくことになると思うが、次につなげるような方策を検討していただけないか、そして、その一つ一つを具体的に行動に移すフォローにこのメンバーが関わっていくことができないか。それぞれの提案について、できるか、できないかという議論をするなどフォローしていかないと、言いつばなしになってしまう可能性がある。

◆ピースツーリズム推進事業の推進にあたって配慮・対応が必要な事項について

(水本委員) 民間の対応としてどのように関わってもらおうかということについて、資料館のピースボランティアの方々を大いに活用されたらよいと思う。彼らは、資料館だけのエキスパートではなく、広島の色々なことに関心を持って勉強されており、そのような人材を大いに活用した方がよいのではないか。

(平尾委員) 平和教育とピースツーリズムとの連携は長期的でもよいのでしっかり考えていかないといけない。先日のルートの調査においても、ただまわるだけでなく、他の委員のみなさんから色々な説明を聞くことでやっと深く理解できた。旅行者に、まわってもらっただけでなく、広島の人としっかりとコミュニケーションをするような場としてのピースツーリズムとなるよう、しっかりと人が介在して、お互いの学びになっていくことが大事だと思う。ピースツーリズムは言葉を変えると、エデュケーションルツーリズムでありスタディツーリズムだと思うので、そこに学びがあるために、そこに開かれた問いが必要であり、ツーリズムをもとに考え

ていく場もあわせて設定していく必要があると思う。

もう一つ、来訪者目線、徹底したユーザー目線で考えていくことを改めて言いたい。私達はとにかく発信ということをよく言うが、それが着信しているかということに関してまで確認していないことが多い。フィードバックとリフレクションという行ったり来たりのやりとりの中でちゃんとPDCA（Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善））をまわして、よいキャッチボールをしながら皆で広島の平和、平和観光を育てていくという発想を引き続きしていければと思う。

（辻委員）一次資料や、被爆体験を次に遺していく継承について、若い人たちに継いでいくということを考え、歴史をうまく伝える形に配慮しないといけな。現段階では、SNSを使える人もいるし、使えない人もいるが、10年後はどうなっているか。次世代の人に平和ということについて、どう考えてもらうのかということの配慮が必要だと思う。音楽やアートなど、方法は色々あると思う。一次資料そのものを大切に保ちながら、こういった形で情報発信していくのが大切だと思う。

（前田委員）ピースツーリズムについて、資料館や原爆ドームが間違いなく中心だろうと思う。たくさんの人が集まる場所であり、ピースツーリズムに関する情報を提供する場所として、資料館ないしはその近くの場所を考える必要があると思う。具体的には、資料館を観覧した後の出口付近で情報提供ができればベターであるし、物理的に場所がないのであれば、近くのレストハウスあたりにおいてピースツーリズムについての情報提供を行っていくとよいのではないかと思う。

（渡部委員）長崎との連携が大事だと思う。広島をきちんと見られた人は、必ず長崎に行く。両市の間でピースツーリズムについて意見交換し、双方の被爆の実相やその後の取組を来訪者に巡って感じていただくような長崎との連携が大事である。「広島・長崎」ではなく、「広島長崎」と一つであるという発想が要るのではないか。海外での原爆展もそのようにされていると思う。機会があれば、長崎との交流や連携についての意見交換の場があるとよいと思う。

人材の活用について、ピースボランティアもいるし、伝承者もいるので、こうした意欲を持って広島を伝えたいと思っている皆さんに活躍の場を提供することが大事だと思う。これはピースツーリズムの中でできるのではないか。市民の皆さんが活躍できる場を作るという発想が大事ではないか。

レストハウスは賑わっている。つまり、来訪者にとってレストハウスのような施設が必要であるということだと思う。このような施設が平和公園周辺に絶対的に足りていない。市民球場跡地もあるし、作れるのではないか。そこに座って、感じたことを話すことができたり、情報を得たりできる場所を、資料館の中ではなく、外に作っていただくことによって、資料展示の場所も広がる。

今、資料館本館の下を掘っている。あれは貴重な資料である。真っ黒になった土が出ている。一部をくりぬいて展示することにより、ここは元は公園ではなく人が住んでいた街であったことを知ってもらうことが、小さな費用ですぐにできる。そういうことを積み重ねていくことが大事ではないか。

（古谷委員）先日、定年退職した元学校の先生が平和記念公園や資料館を案内する組織ができるという記事を新聞で読んだ。英語の先生だった人は英語で案内するそうだ。とてもよいことだ

と思うが、どのように実際に行われるのか少し気になる。これまで、国家資格である通訳案内士の試験に合格していない人が有償でガイドをするのは法律違反だったが、法律が変わり、来年から地域通訳案内士としてライセンスなしでもガイドができるということだ。質がしっかりしたものであれば全然問題ないが、どのような研修や段取りを踏まえて実際にガイドをされるのかが気になる。広島県の観光ボランティアの方々の研修は、私達が県から依頼を受けて実施しているが、それに似たようなことが、新聞に掲載されていた組織についてもできないかと思っている。時代の趨勢なので、ひろしま通訳・ガイド協会はこれまで任意団体だったが、来年1月から一般社団法人として発足する予定になっている。ガイド組織が雨後の筍のようにどんどん出てくるのではなく、きちんと確認して質の高いものにしないとまずいと思う。

(津村委員) 長期的視点でピースツーリズムを推進する上で大事だと思う。資料に、「持続可能」という言葉が何度か出ているが、末永くツーリズムの提供と市民と交わることができる機会の提供をやっていくべきだと思う。

資料館もしくはその付近でピースツーリズムの情報提供をすることは検討課題だと思う。長崎市との連携について、平和推進課では、平和首長会議の運営と一緒にしている長崎市と、ヒロシマ・ナガサキ平和推進事業の会合を定期的に持っており、そのような場をピースツーリズムの意見交換に活用することも可能ではないかと思う。ピースボランティアや伝承者にピースツーリズムにおいて活躍していただくことについては、我々も伝承者の活躍の場をいかに増やしていくかを課題の一つとしてとらえているので、連携できればと思っている。資料館地下の遺構については、現在も既に、東館1階の情報コーナーにおいて、しゃもじや台所用品の真っ黒になったものなどをケースに入れて展示しているが、さらにあさってから出土した遺品の一部約30点を同じく東館1階で展示することになっている。

募金箱の提案について、市民の皆さんに知られていないとしたら我々の力不足なのであるが、昨年度から資料館の観覧料を増額し、それまで資料館の管理運営費に当てていた一般財源がその増額分だけ不要になるので、それを活用し、市が持っている広島市原爆ドーム保存事業等基金に増額分相当額を積み立て、それを原資として、被爆の実相を守り、広め、伝えるための新規拡充事業の財源として充てていこうという取組を昨年度からしており、実はピースツーリズムの事業費の一部であるコンテンツ制作の経費の財源にも充てている。他にも、被爆建物の保存工事にかかる補助金にも充てている。この発信とPRをうまくすれば、提案されたことにもつながるのではと思う。

(阪谷委員) 来訪者目線ということは徹底して、このピースツーリズムの中で進めていかなければならない。そういったことを行政職員が一生懸命実践していくことで、広島市政を市民目線で進めていくことにもつながるので、ぜひやっていきたい。ピースツーリズムの発信の場所として、資料館やレストハウスを活用することについては、資料館についてはまだ平和部門と協議していないが、レストハウスは観光政策部の所管なのでぜひやりたい。

平和に関して高い意識を持っている方々に活躍の場を提供するということは大事だと思っている。ピースボランティアなどの人材がたくさんいるが、もっと裾野を広くする作業を進めていかなければいけないと思っている。その時に、裾野を広くするということを行政が全部担ってやればよいのか、それとも民間の皆さんと一緒にやってやるのか。色々な人が持っている平和に関しての知見を、どのようにして後世に継承していくか。被爆体験伝承者だけではなく、

一般の市民レベルで広島への平和への思いを伝えていくことをどう取り組んでいけばよいかということを考えていくことが、ピースツーリズムを将来にわたって成功させていくために必要ではないかと思っているので、皆さんからそれについてのご意見をいただければありがたい。(津村委員) 先ほど話した基金について、観覧料増額相当分だけでなく、色々な方々からの寄付金もこれに積み立てており、被爆建物の保存やピースツーリズムの財源等に当てている。これをもっとPRしていかないといけないと思っている。

◆その他意見交換

(原田座長) 今回までの議論の中で、資料館についての課題がたくさんあるとの意見があった。

資料館の課題とはどういうものか。東館がオープンし、現在は本館の工事や展示内容などの議論が進んでいる。4月の東館リニューアル直後に、朝日新聞で「リニューアル東館を歩く」という記事が掲載された。私も色々な方をお迎えし東館のホワイトパノラマの所で案内している。被爆人形（ジオラマ）については、色々な議論がなされたと聞いている。当時の惨状を表していない、これは実物ではないので、使わないことになった。しかし、その後、朝日新聞でも4～5回、中国新聞にはおそらく40回くらい、再展示するべきだという投書がなされたようだ。渡部委員の言われた平和記念公園の地下の遺構をどうするのかについても、産経新聞など複数の新聞で取り上げられている。旧広島大学理学部1号館の保存について、4月以降は、保存・活用の具体化が足踏みしている。また、中国新聞の潮流欄において、資料館が「グランドオープン」という言葉を用いているが、この用語を使用してもよいのかとの記事が掲載されている。

また、資料館の課題について、私は多くの社会人団体や修学旅行生達を迎えており、リピーターである引率の先生方から聞いている意見を紹介したい。一番多いのは、「ジオラマをなぜ撤去したのか、本館が閉館している今こそ必要なのではないか」との意見だ。それから、「被爆資料を見に来ているのに、それは東館にごく一部展示されているのみで、訴える力が弱い」といった意見がある。また、「要人メッセージはパネルで1枚1枚めくることができたが、今は映像化されているので、その前を通る時に表示されているものは読めるが、他の人のメッセージは読めない」、「デジタルに偏りすぎることによって資料館は博物館化し訴える力が弱くなってきた。被爆の惨状はアナログで訴えるものだ」との意見もあった。

さらに気になっているのは、広島市が取り組んできた事項、例えば被爆50年に全米をゆるがすことになったスミソニアン博物館での被爆資料の展示問題や、ICJ（国際司法裁判所）での広島市長による核兵器の使用などは国際法違反であるという陳述、原爆ドームの世界遺産登録にいたるまでの市民と努力してきた過程など、平和行政にとってとても大きな事業にも関わらず、十分な展示がなされていない。これでは、ますます風化していくのではないかと懸念するという意見も聞いた。

原爆投下による悲惨極まる状況を伝えるのが資料館の最も大きな役割である。ピースツーリズムの中で、何をどうするべきか議論を深めていければよいと思う。

(水本委員) 私も資料館に関わっているが、問題は、色々な意見がきちんと資料館に伝わっているのかどうかだと思う。また、来館者の感想も多様なので、アンケートをとったらよい。広島を熟知している人の受け止めと、そうでない人の受け止めがあると思う。私が見ても、資料館の内容についてどこか批判をしようと思ったら、あらゆることを批判することは可能だ。しか

し、ピースツーリズム推進懇談会の役割は、ピースツーリズムとうまく資料館の内容がフィットするよう、資料館にリクエストを出すことであると思う。資料館に代わって資料館の中身に立ち入って議論する余裕はない。ピースツーリズムに連携できる資料館であってほしいというリクエストを出し、それに対して答えをもらうということが大事だと思う。

被爆人形についても色々な見方があり、被爆者の中でもあんなものではなかったというご意見もある。前の市長の意向もかなり反映されており、色々な力関係が影響していると聞いている。いずれにしても、あらゆる意見をきちんと反映して、フィードバックしながら、固定した展示ではなく、過ちがあれば正しながらやっていくという姿勢でやって欲しいというリクエストを出すのが一番良いのではないかと思う。

(平尾委員) ジオラマについて原田座長がここまでたくさん投書があったことはなかったと言われたが、これはある意味よいことだと思う。平和に関することについて、広島では、どちらかというと、「8時15分」という答えを答えなさいといったクローズドクエスチョンがされることが多い中で、このことについてどう考えるのかというオープンクエスチョンについてディスカッションできる場がまだまだ少ないと思っている。

また、若い世代をどう人材育成していくかということと、長崎との連携というところと絡んでくるが、今教育旅行というと、沖縄が圧倒的にたくさんの人数を受け入れており、若手が学生を受け入れて若手自身が教えていくという活動が目立ってきている。一つの例で、「株式会社がちゆん」という会社を大学生が起業して、がちでゆんたくする、つまり本気で考えようという取組をしている。いかに問いを投げかけて、若い人達と一緒に考えていくかということ、資料館から出てきた生徒達と一緒に考える場づくりというのが、必要ではないかと思う。原田座長が言われる資料館自体についての議論ももちろんあるが、そこで学んだことをどう自分事化していくか、そのために良い問いを設定して主体化させていくということ、ツーリズムの一つのコンテンツとしても考えていきたいと思う。

(辻委員) 資料館単体ではなく、本川小学校平和資料館や袋町小学校平和資料館は資料館別館としてもよいくらいで、トータルで広島の平和資料館群だという発想はどうか。今は教育委員会におまかせしているかもしれないが、このような大切な資料は市直轄であってよいのではないか。以前のジオラマが本川小学校の地下にあるのを初めて見たが、このようなものをきちんと見てもらわないといけない。今残っているものを大切にしないといけない。平和記念公園を中心として人が来ているが、もう一歩足を伸ばしてもらうと別館が何箇所もあるという、トータルとして平和資料館だと捉えていただいたほうがよいのではないか。

(前田委員) 広島市には博物館群構想というものがあり、その中で、資料館は原爆被害や平和についての中心的な博物館という位置付けになっている。資料館はすべてを展示することはできないので、原爆被害、平和、復興についての中心的な施設であって、アナログなのかデジタルなのか展示手法を考慮しつつ、原爆被害についての中心的な役割を果たしていくという位置付けだと思う。辻委員が言われたように、色々な関連施設もあり、より知識を深めたいのであれば関連施設も見えていくという群がしっかり存在していることが大事だと思う。それぞれが役割を果たしていくとよいのではと思う。

(渡部委員) 資料館の展示については、きちんとした委員会ができてそこで検討を進めてきたのだと思う。これまでを振り返って、何が議論されて、どのようなプロセスで意思決定がなされ

ているのかがはっきりしていないと思っている。どのように質問しても、それが払拭されない。広島市はこのことについて真摯に答える責任があると思う。これだけ資料館についての意見がある中で、一番大事な本館がオープンする時、市民の意見をどう広島市が受け止めたのか、修正したのかしないのかということを含めて、きちんと答える責任があるのではないと思う。

先般、テレビで昭和 30 年に原爆裁判があったことを知った。非人道的であるとの判決が出ており、これが今日の ICAN の核の非人道性についての認識を広める取組に結びついている。この大事な観点が、資料館の展示から抜けているのではないか。ノーベル平和賞の授賞式に市長が行っているが、そこまでのプロセスも誰にでも分かるように展示等をする必要があると思う。

辻委員が言われた群として展示することはとても大事だと思う。広島を歩くことで、はじめて広島土地柄を感じていただくことができる。目に見えず耳に聞こえないが、歩くと感じることができる。資料館をどう捉えるか。旧広島市は街全体が資料館ではないかという考え方もあると思う。色々なことをきちんと検討していき、行政はそのことについて責任を持って回答していき、市民との間で意見交換をして進めて行く姿勢が求められていると思う。

(古谷委員) 今年の 4 月に東館がオープンして見た時、通訳ガイドの仕事が続けられるだろうかと思った。以前の展示内容と比べると、メッセージも伝わらない。今の案内の仕方は、まず 1 階の佐々木禎子さんの折り鶴やしんちゃんの三輪車を見せてから、エスカレーターで 3 階に移動してホワイトパノラマを見せる。メディアテーブルについては文字が多くいつも混んでいるので、すみませんがご自分で見てくださいとしている。その後、1 階のビデオシアターで 22 分の被爆者からのメッセージをビデオを見ていただく。以前の資料館で一生懸命案内していた時とは全然違う。来年 7 月までがまんだと思っていたが、また半年伸びた。辻委員が言われたように、本川小学校と袋町小学校の平和資料館がきちんと整えられているので、そこを見ていただくということで、ようやく残念な思いをおさえることができるかと思う。バスで移動する人数の多いツアーについては無理であるが、個人の小さなグループではそのように対応することで、再来年の春までがまんしなければならないと思うと、とても残念である。

(津村委員) 資料館について様々なご意見をいただいた。色々な方の意見を伺ってそれを心に持ってどうあるべきかを検討していく姿勢持つこと、そして説明責任を果たすことは当然だと思う。これまでも、市も資料館も、そのつもりできちんと手順を踏んで説明しながらやってきたつもりではあるが、それが足りないということだと思う。より力を入れてやっていかなければならない。中身については、当事者であるため、発言は控えさせていただく。

(阪谷委員) 行政の施策も、行政が持っている施設も、皆さんに磨かれてこそ輝くと思っている。観光分野においても、きらびやかな話ばかりでなく、観光の施策についても様々な批判を受けていることも事実である。しかし、その批判に目を背けず、しっかりと受け止めて、行政だけでなく皆さんと一緒に作るという気持ちをもってやれば、必ず磨きがかかる。観光とは国の光を観るという意味がある。広島市の光を観てもらおうと思うと、行政と民間の皆さんが一緒になって磨いていかないといけない。今いただいた資料館についてのご意見は、決して批判ではなく、磨くための材料になるものだと思う。平和部門だけが担うのではなく、我々観光部門も一緒になって担うことによって、よい施設になっていくと思う。我々も力を尽くしていきたい。

(原田座長) 今回も色々な議論をしていただいた。東館のことについても、修学旅行の引率の先生のご意見も少し報告させていただいた。やはり、それを受け止めていく必要があると思う。

記者の皆さんからは、資料館に対しては意見を言いにくいという声も聞いている。しっかりと意見を受け止めて相手側に返していくということが大事ではないか。

今回のツーリズムについて色々な議論をいただきながらも、その根底にあるのは、市民の皆さんがいかに関与して下さるか、つまり市民と行政が共同したアクションプランというものに、位置づけられるようになるのがポイントになると思う。いくら良い意見を取りまとめても、市民の皆さんが動いてくださらないと実現できない。市民と一緒に行動できるようなプランとするためには、ツーリズムを発信するにあたって最も大事な所が資料館、原爆ドームや現代美術館などであるので、市民と共同で動けるような平和文化事業の推進プランも必要なのではないか。こういったものができあがってくれば、多くの人を惹きつける事業展開になるのではないか。今までも市民の皆さんも色々な事業に関わっていただいているが、なかなか全市民的な運動として展開していくのが難しい。単に一過性のイベントとして終わってしまうのではなく、持続可能な事業展開に結びつけることができればよいと思う。

今日いただいたご意見を踏まえ、まとめの素案を作ったうえで、皆さんに議論いただき、2月のまとめにつなげていきたい。

(水本委員) 場所の候補の一つに、比治山地区の放影研を入れて欲しい。放影研は新しい丹羽理事長に代わられて、市民や地元との関係をオープンにしようと大変、努力されており、過去のA B C C時代の負の歴史への謝罪も含めて率直に語られている。

(原田座長) 議論いただいた考え方をもとにとりまとめを進めていきたい。このほかにもご意見があれば、事務局にご連絡いただきたい。